

オクタヴィア・ヒルにおける思想的影響 — F. D. モーリスをめぐって —

木村 美里

はじめに

筆者による博士論文における目的の一つは、イギリスの環境保護団体ナショナル・トラスト創設者の一人であるオクタヴィア・ヒル（1838-1912）の思想的基盤である「永続する精神」について考察することであった。ヒルはヴィクトリア時代に貧困層の住宅改良、オープン・スペース運動を展開した先駆的思想をもつ人物である。博士論文の中では、ヒルへの思想的な影響として祖父と母親、神学者 F. D. モーリスおよび芸術評論家ジョン・ラスキンを挙げた。本稿では F. D. モーリスに着目し、彼の思想と彼がヒルへ与えた影響を紹介したい。

1. F. D. モーリスとその時代

F. D. モーリス（1805-1872）の活躍した時代は、産業革命を原因として社会的格差や不平等が生じ、これに伴って引き起こされる公衆衛生悪化などの諸問題への解決策が模索されていた。こうした状況が F. D. モーリスをキリスト教社会主義の代表的人物として知られるようになった要因の一つといえよう。キリスト教社会主義とはキリストの教えと精神に基づいて社会主義的な共同体を実現しようとする思想であり、F. D. モーリスのキリスト教社会主義では「社会主義をキリスト教化するとともに、キリスト教を社会主義化すること」が使命として掲げられた（中川 2002：21）。彼は階級や教派による差別のない大学を目指すことを目的として、教育機関設立という社会的貢献を果たしている。キリスト教社会主義運動は先述の信条をもって社会的弱者の救済にあたったが、内部での意見の相違、周囲の社会主義に対する懐疑的な見方などが原因で、結果的に運動の終焉を迎える。ヒルはキリスト教社会主義者との交流によって社会改良の現場で活動した（松

平 2004：75）。彼女は自らがキリスト教社会主義者からの影響を受けたと述べており、また、キリスト教社会主義の精神は運動の終息とは異なり、後世へ受け継がれたとも語っている（Maurice 1913：331）。

2. F. D. モーリスの思想

F. D. モーリスの思想は常にキリスト教の精神に基づく。例えば、F. D. モーリスは愛に関するパウロの次の言葉を引用している（Maurice 1957：19）。すなわち「たといまた、私に預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、私は無に等しい」と記された箇所である。この聖書の箇所が示すものは、預言の力、知識および信仰さえも、愛の存在が欠如した場合には無意味だという意味である。それゆえに、彼の中で愛は重要な位置を占め、神のことを永遠の愛として捉えている（Hill 1956：37）。F. D. モーリスの神への愛に対する見解では、自らの時代において偽りの神への愛が存在すると仮定しており、しかもその愛は真実のそして神聖な神への愛とは注意深く区別されなければならないと主張する（Maurice 1957：19）。ここには単なる金銭的施しと自立を促す愛ある厳しさとの区別に通じる見解が見出せる。

3. オクタヴィア・ヒルに与えた影響

それでは、ヒルは F. D. モーリスからどのような影響を受けたのだろうか。彼女は F. D. モーリスの礼拝に毎朝出席し、礼拝後には彼へさまざまな質問を行った（Maurice 1913：16）。ヒルはキリスト教信者として社会問題を解決する方法を模索しており、対話し、かつ議論することで彼の教えの中にヒルは自分の求める答えを見出そうとしたのである。彼女がユニテリアンの教義からイギ

リス国教会へと改宗するという信仰上の大きな出来事も F. D. モーリスの神学がもたらした影響である。

ヒルは一方で F. D. モーリスより強い影響を受けたが、他方では彼と異なる思想的様相をみせている。一例を挙げるならば、環境に関する両者の見解である。F. D. モーリスは人間形成が環境によって決定されるという環境決定論を否定した。しかし、この否定は人間が社会変革の基礎にあたる道徳的改革を通じて神によって決定される（中川 2002：29）と考えていたためになされたものであり、自然そのものを否定していたのではない。F. D. モーリスと比較して、ヒルの環境や人間形成に関する見解を次のように理解することができよう。ヒルの基本的な考え方は、彼女が行った住宅改良運動、オープン・スペース運動、ナショナル・トラスト創設という活動経緯から人間を取り巻く環境が生活において重要であるとみなしており、環境決定論を肯定していると思われる。ただし、ヒルにとって神の存在が根底にあると同時に、自然は神が創造し、神から与えられた癒しの贈り物と捉えているため、その自然を含む環境も神によってもたらされたものと理解している点で、環境決定論の思想とは異なる視点といえよう。

結論として、ヒルは F. D. モーリスによって神への愛、隣人愛、道徳などの信仰と人間関係の指針となる考えを学んだといえる。すなわち、道徳美における新しい視点をヒルは受容し、独特の解釈を経て自らの思想を開拓するに至ったのである。また、ヒルが形式だけの行動や無節操な施しを容認しなかった根拠も彼の影響にあると考えられる（Hill 1891：168）。

おわりに

以上が F. D. モーリスの思想とオクタヴィア・ヒルへの影響についての概略である。F. D. モーリスはヒルにとって精神的側面に多くの影響を与えたといえよう。今後は F. D. モーリスの第一次

資料をさらに読み進めて理解を深め、ヒルの思想的基盤に与えた影響を考察する。また、次回以降に自然や美に対する感性をヒルに与えたジョン・ラスキンの思想とヒルへの影響を紹介することとしたい。

参考文献

中川雄一郎『キリスト教社会主義と協同組合——E.V. ニールの共同住居福祉論』日本経済評論社 2002年、松平千佳「英国クリスチャン・ソーシャリズムとオクタヴィア・ヒル」『キリスト教社会福祉学研究』日本キリスト教社会福祉学会 37：70-77 2004年、Hill Octavia (1891) “Our Dealing with the Poor” in Nineteenth Century, Maurice C. E. (1913) Life of Octavia Hill as told in her letters, Maurice F.D. (1957) Theological Essays, Hill William Thomson (1956) Octavia Hill – Pioneer of the National Trust and Housing reformer

（きむら・みさと 聖学院大学総合研究所特任研究員）